

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.56 2019年 2月

弾性ストッキング取扱い時の注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例) 閉塞性動脈硬化症(ASO)患者であるにもかかわらず、弾性ストッキングを着用させて手術を実施した結果、術後に下肢の疼痛が出現した。

1 弾性ストッキングの着用可否について

- 着用前には、患者の既往歴や適応等を確認し、着用の可否についてアセスメントすること。
- 患者が動脈血行障害を有する場合は、弾性ストッキング着用の可否について、慎重に検討すること。

下肢動脈血行障害の
悪化が疑われる症状

疼痛

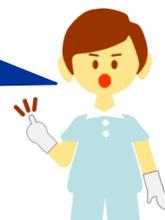
色調不良

冷感

動脈触知不可

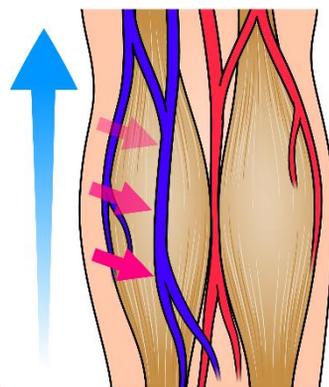
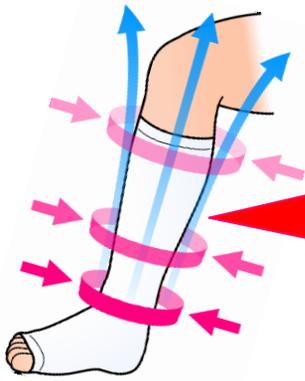


重度動脈血行障害患者への弾性ストッキングの着用は禁止されていますが、十分なアセスメントができていなかったため、着用させてしまい、血行障害が悪化したとの事例が複数報告されています。



弾性ストッキングの作用メカニズム

動脈血行障害のない患者が着用した場合



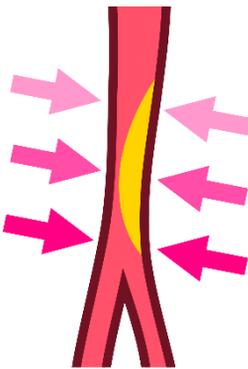
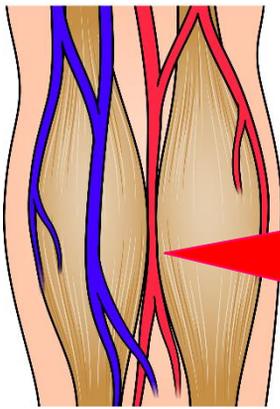
弾性ストッキング
からの圧迫

筋肉のポンプ作用
の促進

静脈血流の促進

静脈還流の改善によりうっ滞が軽減され、血栓形成リスクと肺塞栓症発症リスクの低下が期待される。

動脈血行障害患者が着用した場合



弾性ストッキング
からの圧迫

狭窄部の血流遮断

血行障害の悪化

弾性ストッキングからの圧迫が、アテローム等による狭窄部を圧迫することで動脈を閉塞し、血行障害を悪化させるおそれがある。

動脈血行障害患者の場合、**着用の必要性について主治医と慎重に検討**しましょう。また、着用が必要な場合には、**医療従事者間で着用していることを共有し、着用中は血行障害が悪化していないか確認**のうえ異常が疑われた場合は直ちに使用を中止することが重要です。



本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

どこよりも早くPMDA医療安全情報を入手できます！
登録はこちらから。

